

標準委員会 第7回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2009年10月28日（水） 15：30～17：00
2. 場 所 航空会館703会議室
3. 出席者（敬称略）
 - （出席委員） 関村（部会長），河井（幹事），阿部（弘），野中，福谷，文能，松岡，益子，工藤，谷川，大嶽，劔田，阿部（守），西川，黒村，菅野，中村（隆）（17名）
 - （代理出席委員） 鈴木（平野代理）（1名）
 - （欠席委員） 勝村，三島，内田，木下，及川，瀧口（6名）
 - （欠席常時参加者） 中村（年）（1名）
 - （傍聴者） 中川，矢野（2名）
 - （事務局） 岡村

4. 配付資料

- STC7-1 前回議事録（案）
- STC7-2 人事について
- STC7-3-1 原子力発電所の高経年化対策実施基準の改定（追補）について（案）
- STC7-3-2 原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補案）
- STC7-3-2 別紙1 正誤表
- STC7-3-2 別紙2 原子力安全・保安院技術評価結果の対応（案）
- STC7-3-2 別紙3 P L M分科会 活動スケジュール（案）
- STC7-3-3 第12回P L M分科会資料（抜粋）
- STC7-4 分科会活動報告
- STC7-5 燃料基準開発タスクの進捗状況

参考資料

- STC7-参考1 システム安全専門部会委員名簿
- STC7-参考2 標準委員会の活動状況について

5. 議事内容

議事に先立ち，事務局より，開始時点で委員24名中代理委員を含めて17名が出席しており決議に必要な定足数（16名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（STC7-1）

事務局より，本日配布した議事録（案）は委員に事前送付し，出欠に間違いがあったため修正した旨説明があり，議事録（案）は承認された。

(2) 人事について (STC7-2)

① 分科会

・委員の退任【報告事項】

a) 水化学分科会

佐野委員の退任が報告された。

・委員の選任【承認事項】

a) 水化学分科会

新たに上野 登氏が選任された旨紹介され、審議の結果承認された。

(3) 「原子力発電所の高経年化対策実施基準（改定案）」の本報告 (STC7-3-1~3)

文能委員（P L M分科会・幹事）より、資料STC7-3-1に基づき、「原子力発電所の高経年化対策実施基準（改定案）」の作成プロセス、資料STC7-3-2に基づき、作成した追補（案）、資料STC7-3-3に基づき追補による毎年の改定の作業スケジュールについて説明が行われた。また、作成中に見つかった、2008年版の誤記について、別にまとめて公開したいとの説明が行われた。

審議の結果、追補（案）について書面投票に移行することが決議された。また、部会長の判断により、書面投票期間については15日間とすることとなった。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 技術評価書の要望事項への対応（案）とのことだが、技術評価は終わっていないのではないか。
 - 10/30（金）に原子炉安全小委が予定されているが、万一パブコメ版の内容から変わるようなことがあれば、追加で検討することになる。
 - 今回の追補による改定は、高経年化技術評価の知見を劣化メカニズムまとめ表に反映することが目的であり、要望事項については、編集上の修正で対応可能なため、追補にて改定することとしたもの。
- ・ 技術評価結果を踏まえて改定するようなものではないということか。
 - 高経年化技術評価の結果の反映は、そのようなものではない。
 - 要望事項については、特に技術的な変更を伴うようなものではなく記載の明確化のようなものであったため、分科会としても自主的に反映した方が良いと判断したものの。
- ・ 作業量も多いので、タイミングよく、効率的に改定していくことが、重要ではないか。
 - 高経年化技術評価の知見の反映は、追補により毎年改定することにもともなっているもの。ただ、追補による初めての改定であり、慎重さは必要。
- ・ 予想していなかったような知見はあるのか。
 - 事象として発電所で見つかったときは予想していなかったような知見もあるが、今回の改定作業としては、既に高経年化技術評価書に報告されているものであり、タイムラグがあるため驚くようなものは無い。
- ・ 2500件の変更なので、いかにしっかり確認したかというのが論点。予想より多かったが、今後は減っていくのではないか。

- 来年はBWRの2基のみとなりそうである。
- ・ 浜岡1/2号は既に運転を停止しており、40年目の評価は無い浜岡2号の技術評価結果について、反映する必要はあるのか。
- 浜岡1/2号にしか無い設備であれば、記載する必要は無いかもしれないが、他のプラントでも類似の設備等があるので、参考になると考えられる。あえて削除する必要は無いと考えている。

(4) 分科会の活動報告 (STC7-4)

事務局より、資料STC7-4に基づき、各分科会の活動状況が説明された。

(5) 燃料基準開発タスクの活動状況 (STC7-5)

河井幹事より、資料STC7-5に基づき燃料基準開発タスクの検討状況について説明が行われた。次回システム安全専門部会において、分科会の設置について審議する予定。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 次世代炉の計画について説明して欲しい。
 - 次世代炉は、180万kW級のプラントであり、燃料については濃縮度も5%を超え、燃焼度も70GWd/tを超えるもの。今年度末頃から概念設計の評価を行う。
 - 本タスクには、とりまとめをしているエネ総工研にも入ってもらっている。
- ・ LUA分科会の設立とあるが、燃料分科会ではないのか。
 - 標準毎に分科会を設置するとの認識でこうしている。
 - 水化学のようにいくつも標準を策定している分科会もある。
 - 検討したい。

(6) 標準委員会の活動状況について (STC7-参考2)

事務局より、STC7-参考2に基づき、標準委員会の活動概況と、秋の大会で行われたロードマップの連携に関する企画セッションについて報告が行われた。

(7) その他

次回システム安全専門部会については、12月4日(金)14:00~17:00に開催することとした。

以上